

介護環境改善へ研究会

学生ら若い視点で意見交換

厚生連など



介護の環境改善に向け、介護福祉士をめざし勉強中の学生や介護現場で働いている人たちが参加する第3

回介護環境改善研究会が9月6日、佐久市の佐久大学で開かれた。写真。J A 長野厚生連、社会福祉法人ジエイエー長野会、佐久大学、信州短期大学部が主催、200人が聴講した。

介護利用者の生活を支える介護の実現と、夢と希望が持てる介護職場を目指すことが開催の目的。同短期大学部介護福祉学科の学生らの意見発表、地域で介護

事業にかかわっているベテラン介護福祉士たちの活動報告などを行った。

介護の重要性と将来について基調講演を行った学校法人佐久学園の盛岡正博理事長は「自宅で最期を迎えたい人が多いのに現実的に難しいのは、家庭の介護力が耐え切れなくなっているから。また、福祉が公から民間に移行する中で、平等な介護が受けにくい状況になっている」と指摘した。

なく文化だ」と述べた。

高校時代のボランティア体験が介護福祉士を目指すきっかけになったという佐久大学信州短期大学部介護福祉学科1年の櫻井美沙希さんは「信頼される介護福祉士、常に技術を磨く介護福祉士、誰にでも寄り添える介護福祉士になりたい」と語った。

同科2年の市川健太さんは、目指す介護福祉士像のポイントとして、優しさと思いやり、プロ意識、自身の健康管理能力、他のスタッフとの連携力、を挙げた。

平成26年 9月15日付
信濃毎日新聞